(C)新潟日報社

雪消え遅れ育苗心配

上中越の中山間地 県に除雪費補助訴え

今冬の豪雪で上中越地方の中山間地で雪消えが進まず、育苗を控えた農家が作業の遅れを心配している。例年なら育苗用地を日光にさらして土の温度を上げる時期だが、重機で除雪した育苗用地を確認する内山文英さん。残る10㌢ほどの積雪は自然に解けるのを待つ＝29日、上越市大島区

積雪は多い所でまだ3㍍近い。県は育苗用地の確保に向けた除雪費の助成を検討している。

新潟地方気象台によると、29日午後5時現在の積雪は魚沼市（入広瀬）242㌢、津南町205㌢、十日町市180㌢、上越市（安塚）122㌢。いずれも平年の2倍前後に上る。豪雪に加え3月も続いた降雪と低温傾向が雪消えを遅らせる。

中山間地の田植え時期は例年、5月中旬から下旬にかけてで、4月10日ごろには育苗作業を始める。上越市大島区の内山文英さん(63)の育苗用地には3㍍近い雪が残り、重機で除雪作業を続ける。「雪解けを待っていたら作付けが間に合わない」と焦りを口にする。

昨年も約30万円掛かった除雪費が、今年は燃油高も重なり大幅増が必至。「米価が低迷する中、経費の増加を食い止めたい」と助成を求める。

県には、農家の要望を受けた上越市や長岡市などが消雪促進対策事業を要請。県農産園芸課は「このまま雪消えが遅れると、育苗用地確保が難しくなることが懸念される。各地の積雪を踏まえ対策を検討する」とした。